

令和5年度の本校の研究について

R05.05.10-12 学年PTA

附属学校としての“三つの使命”

【教育実習】

教員を目指す学生に対し、体験的な実習を実施し、教職への夢や憧れを育てる

地域のモデル校として、本校の教育・生徒の姿を県内外へ発信

【先導的な教育】

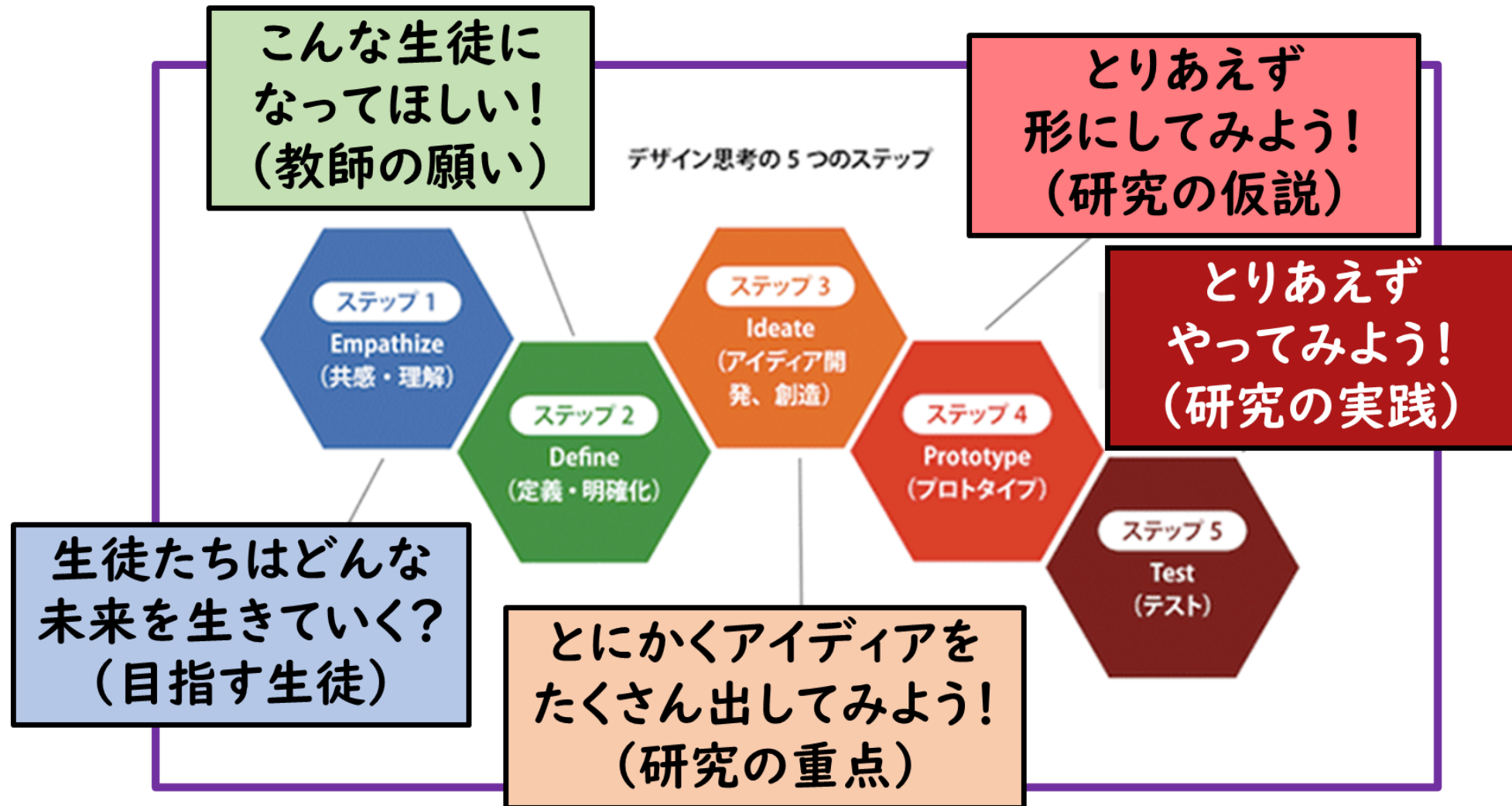
実験的・先導的な教育課題へ取り組み、地域における先導的・モデル的な学校を目指す

【教育研究】

現代的教育課題に対応した教員養成の在り方に関する研究への協力

令和5年度の附属長野中の研究

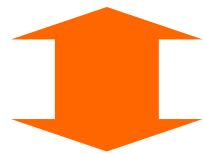
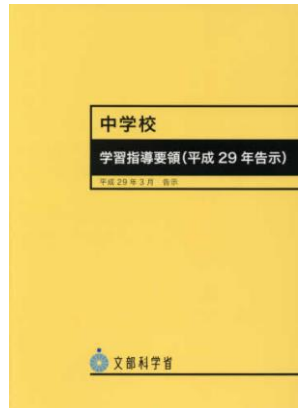
【デザイン思考で考える】



【目指す生徒の姿を考える】

< 中学校学習指導要領（平成29年告示）前文より引用 >

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。



目指す生徒像と生徒の願いに重なりがある！

< R5.03.06 副校長講話より「どんな学びをしたいか？」 >

- ・ 将来に必要なことを学びたい（新3年生）
- ・ 本当に使える力や自分の能力を伸ばしたい（新2年生）

【目指す生徒の姿を据える】

<R5.03.06 副校長講話より「どんな学びをしたいか？」>

- ・将来に必要なことを学びたい（3年生）
- ・本当に使える力や自分の能力を伸ばしたい（2年生）



様々な社会変化を乗り越えた持続可能な社会を目指して、豊かな人生を創造していかこうとするために、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な他者と協働しながら学べる生徒



目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成されている

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力

(各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力

(多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、
社会に生かそうとしたりする力

(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、
社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

令和5年度の附属長野中の研究の概要

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

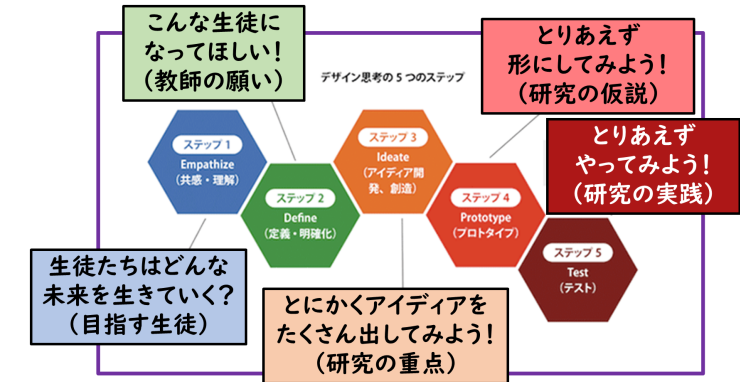
本校で育成を目指す“新たな価値を創造できる資質・能力”

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力 (各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 (自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとするなど)



【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと

【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

全校研究
テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

研究の重点1 (【教科等の本質】に迫るために)

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする

研究の重点2 (【学びの本質】に迫るために)

現代的な諸課題に向かう中で、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようにする

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために…
2つの“新しい学び”を創造する！

あさひのユニット

【教科横断型の授業】

社会・数学、音楽・英語など
複数教科による学び
(教科の枠にとらわれない学び)

年3回実施

(5・9・2月に実施予定)

あさひのプロジェクト

【社会参画型の授業】

総合的な学習の時間を
基盤とした探究的な学び
(外部との連携を含む学び)

通年で実施

(長期休み前後に成果発表会を実施)

【内容】 複数教科が教科の枠にとらわれない学習を実践
(例) 国語・社会で、小説や映画を通じて歴史的な出来事を学ぶ

- 令和5年度は、5・9・2月の3回実施予定
→ 学習の進度が大きく異なる可能性がある (単元の入れ替え等)
- 学習内容は、組み合わせる教科などによって異なる
→ 発展的な内容を含む可能性がある (教科書の範囲外も含む)

- 学習範囲に左右されないよう、年間テスト範囲を設定
- 「あさひのユニット」の学びは教科の評価には反映しない

【内容】 地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学びを実践
(例) 電車利用者を増やすために無人駅をデザインする

- 生徒の追究テーマを基に、チームに分かれた活動を実施
→ 【令和5年度】 3年生のみの活動、12月に2年生へ引き継ぎ
成果発表会の実施 (8・12・3月の年3回を予定)
→ 【令和6年度以降】 異学年の縦割りによる活動を実施予定
- 外部の企業などと連携した活動の充実
→ 校外学習の機会が多くなる (オンラインによる活動も含む)
- 活動時間確保のために 「探究の日」 を設定 ※弁当持参
(5/31, 6/21, 9/6, 9/20, 11/1, 11/22, 12/13, 1/24 計8回を予定)